

RUBeC 演習に参加して

西田 周平

Shuhei NISHIDA

物質化学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、2018年8月18日から9月3日までの期間に、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある Ryukoku University Berkeley Center にて行われた「RUBeC 演習 I」に参加し、カリフォルニア州バークレーにある Jodo Shinsyu Center で英語ライティングとプレゼンテーションスキルについて現地の先生から教わりました。また、水曜日には、カリフォルニア州サンタローザに本社を置く Keysight Technologies Company と龍谷大学と協定校の関係にあるカリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) に訪問し、現地の企業についてと大学についての様子を学んだ。そのことを報告する。

2. RUBeC 演習 I に参加した目的

今回、私が、RUBeC 演習に参加した理由はいくつかあります。まず、将来的に働いたときに、海外などへの事業展開等により海外で働く機会が訪れたときに今回の経験を活かし、異文化にも対応していく力と今の自分の英語でどこまで通じるのかということを知りたかったからです。そして、自分自身の経験を増やし、あらゆる考え方などに触れることでさらなる成長をしたいと思ったからです。

3. 授業内容

授業内容は、午前と午後の2つに分かれており、午前は主にライティング中心で文書の書き方などを、午後はプレゼンテーションスキルを鍛える授業で、プレゼンをする上で必要な技術などを学習しました。そして、授業後はアシスタントの方々に課題などを添削してもらいました。

3.1 テクニカルライティング

この授業では、自分たちがあらかじめ用意した自身の研究に関する要旨を英文にしたものを使用し、英文の文法として間違っている部分を手直しすることや、表現としてふさわしいものへの変更などを行った。さらには、長く続く文章を同じ意味で一つの文章にまとめ、見た目をよくするといったことを授業で行いました。そして、最終日にはとても見やすくまた、美しい要旨ができました。そして、最終日にはその出来上がった原稿で、3分のスピーチを行いました。このことで、文法的に正しい英語と必要なスキルが身についたのと同時に、英語を文章として書くことが少しできるようになったのでよかったです。

3.2 プレゼンテーション

この授業でも事前に用意した自分の研究のパワーポイントについて英語に訳したものを資料として使用した。この授業では、プレゼンテーションのスキルを中心に学習した。発表する上では、アイコンタクトをすることやジェスチャーを加えることが必要で、なぜ必要なのかといったことや、どうやって向上させるのかといったことを教えてもらいました。さらに、“chunk”という発表する上での文の区切り方について特に教えてもらいました。日本人には難しい発音や、区切り方が多く、英語で相手に伝えるのは、とても難しいと感じました。

次に、スライドの作り方を学びました。スライドには、必要な情報のみを極力掲載するようにし、必要のない情報は載せないといったことや、図をわかりやすく貼り付けるといったことを学び、自分のスライドを修正した。

そして最終日には、自分の研究についてのプレゼンテーションを6分間で行った。今まで学んだことをできたかはわからないが、いい経験にはなったと感じました。これからは日本でもプレゼンのスキルを生かしたプレゼンテーションを意識して取り組んでいきたいと思います。

4. 企業、大学訪問

8月22日に Keysight Technologies 社を、8月29日に UC Davis に訪問しました。

4.1 Keysight Technologies 社

Keysight Technologies 社は、サンタローザに本社を置く測定機器を作っている会社で、日本にも支社を持つ世界的にも有名な企業の1つです。主な製品としては、スマートフォンやタブレット、ウェアラブルといったものを製造・開発しているが、市場に出る前に必要な計測も提供している会社です。当日は会社内部の見学をしました。最も印象的だったのは、製品の開発から製造までのすべての工程を全部行っているということです。いわゆる一貫生産体制の企業だったのですが、火事で被害にあうことも多いのに、この体制で長く続いているということに驚きました。ここでは、海外の企業ではどのような感じで働いているのかといったことに、実際に触れることができたことがいい経験になりました。

4.2 UC Davis

UC Davis は非常にキャンパスが広く、カリフォルニア大学の中でも特に、農業系の学科が有名なところですが、印象的だったのは、キャンパス内に牧場があったということです。牧場が施設内にあるといったこと自体驚きです。食堂も広く、学生も多いということもいいことではありますが、何より、教授の方に、さまざまな国籍の方がいたということが最も印象的で、すごく衝撃を受けました。

5. ホームステイ先での生活

自分がホームステイした所は、ホストマザーしかおられないところではあったがとても充実したものであった。朝飯と夜飯は毎日作っていただき、朝の登校の際は、最寄駅が少し危険ということから隣の駅まで送迎してもらっていました。また、カリフォルニア州は干ばつということもあって、水の使用量が制限されていたため、入浴や歯磨きの部分は苦労しました。同じホームステイ先に自分を含め3人いたのですが、協力して節水していました。いかに普段の生活で水が必要かということを感じました。本当にあらゆることをすべてやっていただいた感じで、とても過ごしやすく、また、本当の家族のように、雑談などもできたので、とてもよかったです。

6. おわりに

今回は、約2週間というとても短い期間でしたが、アメリカの文化に触れ、生活を体験し、今まで日本では体験することができなかったことを数多く知りました。自分としては、英語が伝わるのかということが、最も心配な部分でした。もちろん伝わらない部分も多く、何度も苦戦しましたが、アメリカの人はどんな人もいやな顔一つもせず、受け答えしてくれる方が多く、何度も救われました。

この経験を通して、これから生きていく上でも、視野を広く持ち、どんな考え方も受け入れ、だけど決して消極的になるのではなく、むしろ何事にも積極的になりたいと思いました。そして、もしまた機会があるのなら、ぜひ、行きたいと思いました。